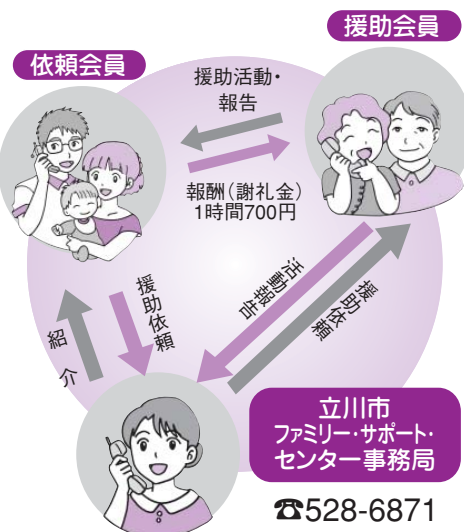


立川市では、男女が互いの人権を尊重し、あらゆる場での男女共同参画を推進するために、今年度から「第4次男女共生社会推進計画」(第4次立川プラン)を実施しています。今回はその中から、地域の子育てを支援する「立川市ファミリー・サポート・センター」の活動と、女性が社会的に発言する場として重要な「審議会への女性の登用状況」を取り上げました。

応援します！ 仕事と家庭の両立

立川市ファミリー・サポート・センター



528-6871に事務局があります。

立川のファミリー・サポート・センターができたのは平成12年6月。今年で5年目になります。発足した年は634件だった活動件数も、昨年度は732件とぐんと増えました。

主な活動内容は
●保育園・幼稚園の送迎と保育
●保育時間外・休園の一時保育
●学童保育所終了後の一時保育
●保護者が学校行事に参加する場合の一時保育
●保護者が通院や用事のある場合の一時保育
●病気の回復期の一時保育などです。

今では仕事を持つお母さんだけではなく、家にいるお母さんたちへの援助も増えてきて、第二子出産後の上の子の一時保育や、1か月検診の時に、待合室で上の子の保育をするなど、きめ細かい援助がなされています。

援助会員には養成講座も



援助会員は、登録にあたって全5回の養成講座を受講します。講座は年に2回、一度に5回全部受けられなかった時は、次回に持ち越せるようになっていきます。

この講座に編集委員も出席してみました。「栄養と食事」を学ぶ回では栄養士の方がスライドを使い献立を分かりやすく説明。乳幼児でもこんなに食べられるのかと驚きました。

また行事食なども学ぶことができ充実しています。

「援助って何？」という回は、講師から「安心して預けられる人が近くにいることが一番。依頼する親子が主役ですから、教えたり、指導評価したりしないで、ありのままを受け入れ、信頼関係を作って欲しい」との話がありました。

こうした考えは援助会員だけでなく、今子育て中の方、お孫さんの世話をしている方、これからお母さんになれる方すべてに役立つものだと思います。

市政にもっと女性たちの声を

どうしたら会員になれる？

入会金、年会費などはなく、援助を受けた時、謝礼金を支払うようになっています。

安心して任せて...

どうしたら女性たちが活躍できる？

会員数も設立当時より大きく増えて、16年度は援助できた方(援助会員)157名、依頼した方(依頼会員)721名、そのどちらも希望する方(両会員)88名となっています。

会員登録はファミリー・サポート・センターで行い、センターのしくみを知っていただくための説明がなされます。また、援助会員を希望する場合はセンターが実施する養成講座を受けます。

どうしたら女性たちが活躍できる？

援助会員には少ないですが、男性の会員もいて、子どもの送迎などに活躍しています。

また、最近では夫婦で子育てに関わろうとする人たちが多く、会員登録や援助者との打合わせに、両親で参加する場合が増えています。

子育て中はちよとした手助けがありがたいもの。ファミリー・サポート・センターで立川に子育てでネットワークがますます広がります。

利用者の方へ

ぼくフウってシャボン玉吹いたよ

今年2月に両会員になったものの、2歳の息子は越えてきて近くなった実家頼みで、なかなか利用する機会がありませんでした。

今回は急用で、趣味に旅に何かと忙しい実家は先約済み、初めて援助をお願いすることにしました。

援助の方は元保育士さん、事前打ち合わせからお子さんのおもちゃを出して頂き、息子はいつぱいのミニカーに夢中。当日は、すぐ抱っこされてあつけないバイバイと送り出してくれました。

その後は、ミニカーで遊んだり、外に出てシャボン玉を

息子も来年は幼稚園。再就職を考えながらも、子育てとの両立への不安などから自問中の私ですが、思わぬメールに背中を押して頂いた感じがします。これを機に、「ファミサポート」や様々な制度を味方に乗り切っていければと思います。

動き出した 第4次 立川プラン

男女共生社会 実現のために

2004年度ファミリー・サポート活動表		
保育所や幼稚園の迎え・預かり	2815回	
学童保育の迎え・学童の預かり	1371回	
障害を持つ児童の送り迎え・預かり	1132回	
保護者の外出	551回	
保護者等の短時間や臨時の就労	371回	
子供の習い事の送り迎え	122回	
子供の病気回復時の預かり	91回	
保護者の病気・急用	81回	
その他※	798回	
合計	7332回	

※その他の内容 冠婚葬祭、PTA活動、保育所、学校の休日学童の朝の預かり・送り、求職中の預かり

立川市男女共生社会推進会議会長 深尾凱子さんからのメッセージ

立川プラン 使いこなすのは一人ひとりの市民です



深尾 凱子(ときこ)さん
読売新聞社友。元埼玉短期大学教授。市内在住。

推進委の手作りプラン

今回の「第4次立川市男女共生社会推進計画」の重要なひとつの特徴は、今までのように推進会議が大きな方針を市に提言するだけでなく、具体的な107の施策案すべてを策定したことにあります。その意味で、今回の立川プランは、公募委員4人を含む推進委員たちの初の「手作りプラン」といえます。

男女があらゆる分野で共同参画していくためには、女性たちのがんばりだけでなく、男性たちの働き方自体も見直す必要があります。また、職場で女性たちが意欲を持ち続けられる条件、育児と仕事

が両立できる環境を整えられていることも鍵になるでしょう。プランでは11の事業を「重

点的に取り組むべき事業」と位置づけています。その中には「男女平等教育等の人権教育の推進や「女性のための相談体制の充実」などこれまでも行われていた事業と共に、新規に取り組む事業が5つも含まれています。

特に「紹介したい事業のひとつは市内の「企業、事業所の男女共同参画度調査」を実施してみようというものです。男女があらゆる分野で共同参画していくためには、女性たちのがんばりだけでなく、男性たちの働き方自体も見直す必要があります。また、職場で女性たちが意欲を持ち続けられる条件、育児と仕事

が両立できる環境を整えられていることも鍵になるでしょう。プランでは11の事業を「重

「男女共同参画条例」に向けて

もう一つ新規の重点事業で、ご紹介しておかなければならないのは、「男女共同参画条例(仮称)」の制定に向けた取り組みをスタートさせることです。ご存じのように立川は平成8年、26市の中ではトップで「男女共同参画都市宣言」を行っています。しかし残念ながら条例はまだ制定されていません。宣言と条例は車の両輪で、両者がそろって初めて力を発揮できるのです。条例という、何か遠い存在のように感じしてしまうかもしれませんが、立川市の実情なのです。

立川プランを使いこなして

しかし今回の「第4次立川プラン」もそれを使いこなして、自分の行動規範として取り入れていくのは、他ならぬ一人ひとりの市民です。男女共同参画社会は待っているだけでは実現できません。市民一人ひとりが「個人の能力が発揮される社会」実現に向けて自分のパワーを使うことが大切なのです。

HDI人間開発指数

平均寿命、教育水準、調整済み国民所得から算出される「GEMIIジェンダー・エンパワメント指数」政治や経済活動で女性が活用されている度合いを表す

マルチ商法にご用心!!

「金が確実に入るいいバイトがあるからやってみないか」と友人を誘い、健康食品などを販売して組織に加入させ、結局は多額の負担をさせるマルチ商法による被害が増加しています。

マルチ商法では被害者が加害者に入れ替わり、人間関係を悪化させる場合があります。最近では、携帯やパソコンのメールなどでビジネスに参加させるネットワークビジネスが急激に広がっています。

「薬に儲かりそう」などと気軽に参加してはいけません。よくわからない場合は、消費生活相談コーナーにご相談ください。

〈相談受付〉
平日の9時〜16時
(12時〜13時を除く)



立川このひと

励ましあって、あせらず、話せるように



柳 三雄さん
立川失語症さくら会会長。全国失語症友の会連合会常務理事も兼任。立川市幸町在住。

●「立川失語症さくら会」とは？

失語症は、脳卒中などにより脳の言語を司っている部分が傷ついて起こります。話す、読む、計算などができなくなる障害が残る、自立を阻まれます。半身まひを伴うことが多いのが特徴です。

私の場合、平成8年4月に旅先の小淵沢で起きた脳内出血が、半身まひと失語症の始まりでした。現地の病院で1ヶ月、立川の病院に転院して3ヶ月入院。車椅子から立てた、歩けたと喜び、退院を迎えました。

「退院が治療の始まり」といわれる後遺症で、今後のことを考えていた頃、病院の提案による自主リハビリのため、の友の会「立川失語症さくら会」が、先輩のOさんを会長にボランティアの方たちの協力を得て、会員11名で発足していました。私も早速入会。2年後には会長を引き受け、今では20名、ボランティアや家族を含め30名で頑張っています。

●どういう活動をしているのですか？

定例会を毎月第4木曜日の午後、立川市総合福祉センターで、ST(言語聴覚士)の先生やボランティアの協力を得て開いています。

体操に始まり、スピーチの練習や合唱などで機能の回復を目指しています。

伝えられない、分からないということは、失語症本人はもちろん家族にとっても大変辛い思いの日々です。仲間と和気あいあいのうちに過ごす時間は、情報の交換や励ましあう心のコミュニケーションもあって、安らぎの場にもなっています。

また、立川市の機能訓練教室に合同参加したり、季節に合わせた小旅行やカラオケなど、戸外活動も行っています。失語症者とはかく閉じこもりがちになります。戸外活動はなによりのリハビリになっています。

その他、毎年各地で行われる全国失語症者の集いや全国失語症友の会の会員との交流会に参加したり、失語症セミナーの開催、障害者後援会のイベントや農業祭への参加など、さまざまな団体の方々とも交流の輪を広げています。

●今後の抱負を聞かせてください

最近では若い会員もめだつてきました。若い会員は職場復帰という目標があり、切実な気持ちをもっておられます。このような希望を大切に、若い人の提案力も生かし、失語症に悩む方々の受け皿として、いつまでも続くしっかりとした体制づくりが今後の課題です。

また、高齢化で足腰の不自由な会員の移動のために、自前の車が持てればと思っています。

これからも励ましあい、あせらずに社会や家族の中に溶け込み、障害とともに生きていく方向性を見つけることも、リハビリの一環として大切だと思っています。

アイムは男女共生社会の推進と、消費生活の向上をめざす市民活動の拠点です。

アイムインフォメーション

講座 ～男女共生社会の実現に向けて～

■市民企画活動事業

4月に男女共生社会の実現に向けた学習や調査、研究等の企画を募集したところ、14団体から応募があり、審査の結果、下記のとおり12団体の企画・運営で事業を実施することになりました。なお、実施時期や募集等の詳細については、広報・チラシ等をご覧ください。会場は女性総合センター。

●スウィング21

テーマ 「リスクに備えて自分で選択!～女性のための医療・年金・介護保険～」

日時 9/17,24(土) 10:00～12:00

●グループゆうき

テーマ 「社会保険、わからないで『損』をするのはもったいない」

講師 野上寿子さん(社会保険労務士)

日時 9/21,28,10/5(水) 13:30～15:30

●ウエル

内容 少子化と男女共同参画社会

講師 赤川学さん(信州大学助教授)

日時 10/15(土) 13:30～15:30

●エンパワーズ

内容 コミュニケーションの技術アップのためのコーチング

日時 11/13(日)午後

●ウィンド

内容 TVニュースのジェンダーチェック

日時 11/26(土)

●何知会(なんちかい)

テーマ 「地域におけるDVと子ども達への影響」

講師 尾崎礼子さん(トレーニング技術支援スペシャリスト・オハイオ・ドメスティック・バイオレンス・ネットワーク)

日時 11/26(土)17:30～20:30

●立川子ども劇場

内容 地域で活躍する女性に学ぶ大人の役割

●コープとうきょう立川コープ会

テーマ 「がんばっています!女性医師」

●グループいーな

テーマ 身近なパートナーとのコミュニケーション

日時 10/29,11/12,1/21(土)午後

●女性のものづくり研究会

テーマ ユニバーサルデザインの考え方

日時 10/8(土)午後

●ほのぼの会

内容 音楽史の中のジェンダー

講師 小林緑さん(国立音楽大学教授)

日時 3/25(土)1階ホール

講座 ～消費生活講座～

■いまこそ考えよう!くらしの中の環境問題

家庭排水や大気汚染、プラスチックごみに関する簡単な実験をしながら、環境やリサイクル問題についてくらしの中からできることを考えます(広報たちかわ8/25号参照)。

9月8日(木)、14(水)、22(木)午後1:30～4:00まで(全3回)。定員24名。保育あります。実験材料代として一人100円。

リユース・リサイクル

■不要品交換情報コーナー(5階ロビー)

不要になった生活用品で再利用ができ、「譲りたい」品物の情報をお預かりします。

来所して不要品交換情報カードを書くか、電話で申し込みできます。情報は3か月間を期限として、5階ロビーにある不要品交換情報コーナーで掲示します。センターは情報の仲介をします。交換については、自主交渉していただきます。問合せは、☎528-6801へ。

平成17年度 アム 編集委員

平成17年度の『アイム』(No13～No15)は次の方々の編集・企画でお届けします。
梅田亜希子、片岡郁子、小島つね子、関山まどか、高橋よしの、玉井公子、藪谷英雄、山田奈津子、原和美(助言者) (五十音順・敬称略)

催し(報告)

■食品表示フォーラム(7/28)

流通業者と消費者が食品表示をめぐる意見交換をしました。東京農政事務所と立川市、立川市消費者団体連絡会が共催。女性総合センター・学習室で。



立川市消費者団体連絡会会員が、消費者の立場から食品の安全・安心を読み取るための表示に対する切実な要望を、事業者((株)いなげや、生活共同組合コープとうきょう、(株)ローソン)からは安全な食品を提供するための表示への取組みが、それぞれ熱く語られました。

